

今日は「節分」、寒い冬が終わり 暖かな春へ、新しい季節の分かれ目の日です。保育園では、年長組の扮する“赤鬼”“青鬼”“緑鬼”を相手に 小さな子ども達が泣き笑いしながら全力で逃げては大騒ぎ！で、楽しそうに豆まきをしていました。今日も神様の恵みの中いつもと変わらず賑やかに園生活を送れる幸いに感謝です。

そして 明日は「立春」です。 暦の上では いよいよ春のスタートとなりますが、でも 厳しい寒さは まだまだまだ・・・しばらくは 続きそうな気配ですね。

コロナウィルスの勢いが止まらず、感染者数急増の状況を報道で知らされる度に驚きと不安が募る毎日です。都内では 初めて 20,000 人を超えたと聞きました。成田市でも あっという間に 2,500 人となり、とうとう市の通知により、2月中を登園自粛要請期間として各家庭へのご協力をお願いすることとしました。あまりに急な連絡で、驚かれたり戸惑われたり、お仕事の調整等を含め 即応が困難な方もいらしたかと思いますが、ご理解を頂いておりますこと ありがとうございます。

今のところ 子ども達も職員も皆、心身共に守られて 元気に過ごしておりますが、乳幼児の集団生活における感染対策について今一度よく見直し、より一層の徹底に努めて参ります。引き続き 各ご家庭に於かれましても どうか充分にご配慮下さい。神様の平安に満たされ 皆が笑顔で元気に生活できる時が1日も早く訪れますよう 子ども達と心を併せ祈り続けていきます。保護者の皆様もくれぐれもご自愛下さい。

さて、新年が始まって間もなくの午後、卒園生のお母様から電話がありました。懐かしいお声に感激していると「10日に成人式を迎えるので 先生に会いたい！」との益々嬉しいひと言に大喜びしながら再会の約束をしました。電話を終えた途端、そのY君の当時の姿や笑顔、彼やお母様との様々な思い出が一気に蘇ってきました。3歳の時に 他市から転園してきたY君でしたが、保育者を含め 新しい環境に慣れ受け入れられるまでに長い時間を要しました。その間 担任を始め全職員が 真剣に関わり合い 体当たりでぶつかり合うような毎日でしたが、Y君に対するお母様の一生懸命な姿、純粹でまっすぐな深い愛情、そしてその二人を常に支えられている祖父母のお二人の優しいまなざしとお心が 私達にとっても大きな力となりました。Y君は、お母様とおじいちゃん・おばあちゃんあまの溢れる愛を全身全霊で受けながら友達を自分のことのように大事にする心の温かい真面目な男の子に成長しました。でも そのまっすぐさが周りの人達に誤解をされ易く、時折 感情的な態度を見せてトラブルを起こすこともありました。Y君が卒園し、小学校～中学校へ進学後にもお母様から相談を受け 当時のクラスや学童保育へ足を運んだこともありましたが、どんなに大きくなってもしさい頃のままのちょっぴり照れながら微笑む 優しくてひたむきなY君の瞳を見る度「大丈夫！自分を信じるんだよ！」と切に祈る想いになり、これまでずっと心配しつつも 見守りながら応援してきた私です。

そして何よりその後ろには必ず どんなことがあっても どんな時でも Y君を愛し、信じて見守り続ける お母様の寛くて深く強い心と愛のまなざしがあったことを今 しみじみと思います。

高校入学と卒業の際にも 立派な姿を見せにY君が一人で挨拶に来てくれました。ほんとうに嬉しい思い出です。あれから2年・・・、ここを卒園して14年・・・、やんちゃで何でもやりたい放題！元気いっぱいいたずらっ子だった あのY君が、大人としてお祝いする成人式へ向かう前に、大好きなお母様と二人で ここへ来て先生達に会いたい！と思ってくれたことに、心から感謝しました。

当日 カッコイイ袴姿で訪れたY君は、昔と全然変わらない ちょっぴりはにかんだ優しい笑顔で「無事に成人式を迎えることが出来ました。ありがとうございました」と挨拶してくれましたが、その頼もしい姿は途中から涙に滲んで見えませんでした。それからしばらくの間、お母様とY君・岩崎先生・当時の担任と5人で 懐かしく当時の出来事を思い出しながら夢中で語り合い笑い合い 楽しい時を過ごしました。

“今朝お祝いに炊いてくれた”とお持ち下さった おばあちゃまお手製のお赤飯はまだ温かくY君への変わらない愛がたっぷりでした。ここまで色々なことがあったY君とお母様の人生でしたが、保育園を通して出会いを与えられその成長の日々を共に分かち合い祈りながら見守ることができたことは 私自身の大きな幸せであり 貴い宝物だと、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

明るく深くまっすぐなお母様の愛情は、Y君の心の基盤として しっかりと根付きY君を支え、これからもきっと人としての人格を築いていけることと信じています。

保育という仕事は、子ども達の未来を信じて ただひたすら 彼らの心に種をまき子ども達が咲かせた花や 結ばせた実(未来の姿)を見ることは 殆んど出来ません。「ただ信じて 蒔き続ける」という仕事ですが、今回のY君のように大人としての将来の姿に再会できることは 神様からのプレゼントのようで 本当に感激します。その日の夜、Y君と同じクラスで共に育った14年前の卒園生一人一人を想いつつこれからの大人としての新しい歩みに 神様の豊かな祝福がありますように静かに祈りました。どんなに大きくなっても、どんなに離れ離れになってしまっても つのぶえで出会い、分かち合い、育ち合った子ども達を こうして心に覚えながら 祈る時を与えられることも 神様からの素敵な贈り物なのだと改めて感じています。

今年のいるか組の愛する10名の子ども達も、間もなくここを巣立っていきます。残り少ない共に過ごせる時を大切に、コロナウィルスに邪魔されないことを祈ってこれから歩いていくひとりひとりの道のりを信じて、卒園までの毎日を笑顔に溢れ神様の祝福の中 手を取り合い歩いていきたいと心から願っています。(石田 記)
「すべての上に愛を着けなさい。愛は 結びの帯として完全なものである。(コロサイ3:14)」